

半右衛門政右まさひだり共右衛門政雄まさたけ二男那なつ

寛永 譜 女駒之助めこまのすけといひ七之助しちのすけといひ

たし家 譜 慶長七年けいながちしちねんくめく

台徳院殿とだいとくゐんといひ奉まつ家 寛永 大番おほばんに列

く采地さいち二百石と賜たまひり寛永元年七月

七日ななひくいひ四十五よんじゅうごくいひて死しひ法名道縁

といひ其子半右衛門政軌まさのりはいくいひ先直

太郎たろうといひ七之助しちのすけといひ家 譜

大猷院殿だいけんゐん小結せきむすへ奉まつ家 寛永 大番おほばんといひ

寛永二年十二月かんえいにねんじふにがつ下總國香取しげのくにかき上總國市

原はら武射ぶせ二郡ふたごほけいつくくいひ采地さいち二百石

け清朱印せいしゆいんと下くだつくくいひ同十年二月相換國あひか大

任郡おこな内小うちせうといひ二百石と加くわへれ其後

馬揃うまぞろと名覧ならんの時ときまつくいひ大任郡おほおこな小せうといひ加

増地まうぢとたままふ家 譜 同十六年八月どうじゅうろくにんはつ中城なかつらぎ營

此小こより仰おほせと奉まついひ伊豆國山中いづみくにやまなかの

材木と監以同二十年五月十六日郷橋普清に

と原岩子領五右衛門一信とあつて

駿河遠江の山々より良材と伐出さる事

と奉りし其後組頭小とみたり家譜

普清撰變七之助  
政芳之祖なり

五右衛門政之トニ共右衛門政景と二男あり

家譜 政之トニめ政均とす寛永十年

とあり

大猷院殿と稱し奉りし寛永のち召出さ

れし清小性組小列し廩米三百俵とた

ゆりり慶安元年五月より中興あり候

家譜 今れ小普清撰變  
此々助政撰之祖なり